

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きに気を付けて演奏し、互いに聴き合って演奏する力を付けることが課題である。 ・進んで表現することを楽しみながら取り組んでいる。一方で、歌詞について、発音や想像力を働かせるなどの時間があまり取れなかった。 ・一つの曲に含まれる様々な要素をバランスよく触れて授業を行ってきたが、本時の振り返りで、何を身に付けたかを振り返る際、焦点が絞れなかった。明確な目標設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーでは、音の高さに応じたタンギングの仕方に気を付けさせる。また、音色や響きに気を付けるため個別指導やペア・グループ学習を通して互いの音を聴き合うようにさせる。 ○歌詞から受けるイメージを皆で共有し、表現に生かしていく時間をしっかりと確保する。また既習事項や日常生活と絡め、児童が理解しやすく、学習の意欲が高まるような工夫をする。 ○曲の中に含まれるたくさんの音楽を特徴付けている要素から、本時に身に付けさせることを厳選し、学習計画を立てる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴にふさわしい表現を自ら工夫できるようにしていくことが課題である。 ・主体的に音楽の授業に取り組む雰囲気があり、恥ずかしがらずに音楽的な表現を楽しみ、自らの思いを表現に生かすことができる児童が多い。一方で、表現への意欲を十分に引き出せず、集中できない場面もあった。皆で表現を高め合う雰囲気を作っていくことが課題である。 ・一人一人の表情をみて、理解の遅い児童や活動に集中できない児童などに、適切な声かけをすることが十分にできなかった。個別指導を効果的に行っていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いや意図を言葉や歌で伝え合い、実際に音を出したり歌ったりして試しながら、様々な表現方法を繰り返して、児童自ら探っていくようにする。 ○視聴覚教材を効果的に取り入れたり、友達の演奏を聴いて感想を言い合ったりする機会をとったりすることで、児童が進んで表現してみようとする雰囲気を作る。また、授業者が話しすぎ、児童が受け身になっていないかを意識し、児童が主体者となって意欲的に表現活動を行えるようにする。 ○授業の随所で机間指導や個別指導を効果的に行い、分からない児童や頑張っている児童に声をかける。担当する全ての児童の名前や音楽に対する態度などの把握に努め、その子なりによい表現をしていた時などを逃さずに褒めて音楽が好きな児童を育てる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想と音楽の構造との関わりについて、児童自ら理解して歌えるようになることが課題である。 ・音楽的な表現へのあこがれや意欲をもっている児童が多数みられるが、題材によっては表現するために必要な技術が十分でないという思いからか、消極的になってしまうことがあった。表現に必要な基礎的な技術を身に付け、自信をもって演奏に臨めるようにすることが課題である。 ・楽曲の特徴や演奏のよさを理解して、言葉で表し、聴き深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つ一つの言葉を理解し、言葉の解釈やイメージしたことを伝え合い、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素との関わりを結び付けて考えることができるようにする。 ○児童によって音楽的な知識や技能に個人差があるので、段階別な課題を準備して各自が目標をもてるようにする。また、互いの演奏をよく聴き、相手の演奏のよさを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。 ○楽曲を聴いて想像したり、感じ取ったことの原因を音楽の中から見つけたりする活動を通して、知覚・感受したことを自分の言葉で伝えたり、文章に表すことができるようにする。